



開館 5 周年記念 九州洋画Ⅱ：大地の力- Black Spirytus

九州洋画—それは継承と再生の物語。

明治の洋画界をリードしたのは黒田清輝や藤島武二ら多くの九州出身の画家たちでした。そのせいもあり、九州の油絵の展開は、どうしても日本の美術史と重ね合わせて考えられてきました。その一方で、福岡の八女で制作を続けた坂本繁二郎をはじめ、あえて地域にこだわり画業を追求した坂本善三や宇治山哲平など、固有の風土や文化をどこかに宿した表現が、私たちの心を捉えてきたことも事実です。開館記念展につづく、この「九州洋画」第二弾では、たとえば、黒田たち白馬会があえて距離をとった褐色や黒という色彩、あるいは、ざらざらとした土の触感を手がかりに、大地の持つ内発的なエネルギーを感じさせる作品を明治から現代まで紹介することで、豊かで力強い九州の洋画の系譜を辿ります。

展覧会名	開館 5 周年記念 九州洋画Ⅱ：大地の力 - Black Spirytus
会期	2021 年 9 月 18 日（土）～12 月 12 日（日） 月曜休館（9 月 20 日は開館）
作品数	78 点（85 枚） *展示替えなし
会場	久留米市美術館
主催	久留米市美術館、西日本新聞社、テレビ西日本
特別助成	公益財団法人石橋財団
後援	久留米市教育委員会
入館料	一般 1,000 円（800 円） シニア 700 円（500 円） 大学生 500 円（300 円） 高校生以下無料 ※石橋正二郎記念館もご覧いただけます。※前売券 600 円あり 障害者の方は手帳のご提示で、ご本人と介護者 1 名は一般料金の半額。 （ ）内は 15 名以上の団体料金、シニアは 65 歳以上。 11 月 3 日（文化の日）と 11 月 19 日（開館記念日）は入館無料。 佐賀県立美術館の「白馬、翔びたつ-黒田清輝と岡田三郎助-」展（9 月 7 日～10 月 17 日）の チケット半券をお持ちいただくと団体料金でご覧いただけます。
開館時間	10:00-17:00（入館は 16:30 まで） *10 月 2 日（土）・3 日（日）は 18:00 までの延長開館（入館は 17:30 まで）
交通案内	JR 博多駅より JR 久留米駅まで新幹線で 20 分、在来線快速で 40 分 福岡(天神)駅より西鉄久留米駅まで特急で 30 分、急行で 40 分
本展に関する お問い合わせ	久留米市美術館（公益財団法人久留米文化振興会） 展覧会担当：佐々木奈美子、森智志 〒839-0862 福岡県久留米市野中町 1015（石橋文化センター内） TEL0942-39-1131 / FAX0942-39-3134 https://www.ishibashi-bunka.jp/kcam/ ※開催情報に変更がありました場合には、随時、当館ホームページ、フェイスブック、 ツイッター等によりお知らせいたします。



展覧会の見どころ

プロローグ Prologue

日本洋画の黎明期には多くの九州出身者たちがその展開を担いました。

実学としての油絵が「美術」になり、それを教える学校や作品発表の場が整っていった明治から昭和の洋画壇で重要な役割を果たした画家たちの代表作をご覧ください。



1) 百武兼行《マンドリンを持つ少女》1879年 公益財団法人鍋島報効会



2) 黒田清輝《ブレハの少女》1891年 石橋財団アーティゾン美術館



3) 中村研一《弟妹集う》1930年 住友クラブ

第1章 神話の世界-イメージの撓拌 Section 1. The World of Mythology -Churing Images

九州には古墳時代から諸国の神々を受け入れてきた多彩な文化の土壌がありました。

地理的にまた歴史的に周辺から様々な影響を受けてきたことにより、豊かに交わり、蓄積された、神話性・宗教性を帯びたイメージの数々を見ていきましょう。



4) 青木繁《輪転》1903年 石橋財団アーティゾン美術館



5) 片多徳郎《霹靂》(左隻) 1919年 北海道立近代美術館

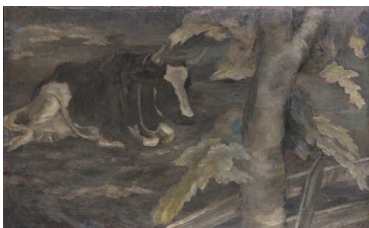


6) 田部光子《魚族の怒り》1957年 福岡市美術館

第2章 選択的土着-ここで描く Section 2. Selected Indigenism -Choosing to Paint Here

ひたむきに貫いた画家たちの生涯によって各地の美術が芽生え、育ちました。

土地にとどまった、あるいは戻った画家たちが、制作や、後進への指導、挑戦を続ける姿勢を通じて周囲の人々を励まし、地方画壇が形成されていきました。



7) 坂本繁二郎《牛》1920年 石橋財団アーティゾン美術館



8) 宇治山哲平《童》1972年 大分県立美術館



9) 坂本善三《空間へ》1978年 坂本善三美術館



第3章 手ざわりの視覚化-煙と土と働く手 Section 3. Visualizing the Feel-Smoke, Soil, and Hands at Work

労働や生活がもたらす手のひらの感触が、再び歩きだす明日をつくりだしました。

日々の暮らしを支える人の手、そして何度でも立ち上がり、踏みしめる大地を主題とした作品群から、絵画に描かれた人間の強さと再生への意志をご覧ください。



10) 池田龍雄《腕》1953年
板橋区立美術館



11) 海老原喜之助《燃える》1957年
新潟県立近代美術館・万代島美術館



12) 吉井淳二《舟をつくる》1968年
学校法人ラ・サール学園

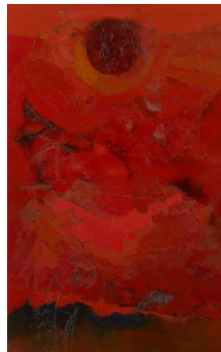
第4章 やまのある風景-記憶の遺跡 Section 4. Landscapes with Mountains-Ruins of Memories

幼いころ、あたりまえに見ていた懐かしい景色は、いつまでも心に刻まれています。

変わることのない自然の山河はもちろん、たとえ人の手で作られたものであっても、何度でも心に浮かぶ風景は、生涯寄り添ってくれる友のような存在です。



13) 牛島憲之《山の駅》1935年
熊本県立美術館



14) 田淵安一《蝕と大地》1956年
北九州市立美術館



15) 野見山暁治《ぼくの生まれた川オンガ》
1992年 田川市美術館

©Gyoji Nomiya 2021/JAA2100201

第5章 時空をこえて-物語はつながる Section 5. Beyond Space-The Story Goes On

かつての夢を受けつぎながら、さらなる新しい物語が紡がれていきます。

写実をこえた表現の中に、また、人生の様々な局面で描く夢や故郷の絵の中に、過去から未来へと受け継がれていくみなさんの想いが託されています。



16) 児島善三郎《五人の女》1929年
久留米市美術館



17) 古賀春江《厳しき伝統》1931年
石橋財団アーティゾン美術館



18) 田中千智《古墳の中で眠る人》
2017年 個人蔵



関連イベントのご案内

トークイベント 共同ホール／要申込み（無料）

行くか 戻るか とどまるか ～それぞれの上京ものがたり

日時：2021 年 10 月 23 日（土）13:30-16:00（13:00 開場）

出演：菅章氏（大分市美術館館長） / 林田龍太氏（熊本県立美術館学芸課参事）

森山秀子（久留米市美術館副館長）

内容：坂本繁二郎や海老原喜之助からネオ・ダダまで、作家と故郷とのかかわりについて
シンポジウム形式でお話をうかがいます。

会場：共同ホール（石橋文化センター内）

定員：200 名

申込：10 月 5 日まで下記方法で *聴講無料

参加を希望される方の氏名（2 名まで可）と代表の方の住所、氏名、連絡の取れる電話番号を
記入の上、ハガキまたは FAX で久留米市美術館（トークイベント係）へ。応募多数の場合は
抽選となります。

結果は 10 月 12 日（火）までに応募者全員にお知らせします。

美術講座等その他のイベントにつきましては
開催が決まり次第、HP 等でご案内いたします。



19) 海老原喜之助《蝶》1959 年
BSN 新潟放送
（新潟市美術館寄託）

作品掲載に関するお願い

1. 作品掲載をご希望の方は、別紙の「画像利用申込書」にて申請ください。
2. 展覧会の広報を目的とした使用に限らせていただきます。二次使用はできません。
3. 作品の文字のせ、トリミングはできません。
4. 当館が指定するクレジットを必ず作品と一緒に掲載してください。クレジットは別紙の「広報画像利用申込書」をご参照ください。
5. web ページ掲載の場合は、必ずコピーガードの処理をお願いします。
6. 広報用作品以外の画像をご希望の場合は、申込書の「その他」の欄にタイトルを記入してください。
7. 掲載見本を必ず 1 部お送りください。